

議会だより



12月の
定例会

③ こんなことが決まりました
12月定例会

⑫ 行政視察
先進地に学ぶ

⑤ ズバリ!! 町政を問う
2議員が質問

⑯ 全員協議会報告
町の重点事業について徹底議論!!



富岡町議会の
ホームページはこちらから

富岡町二十歳を祝う会



定例会審議議案一覧

令和7年12月17日～18日

令和7年第5回定例会で審議した議案とその結果

上程議案・概要		結果
◆報告		
報告第8号	専決処分の報告について (損害賠償の額の決定及び和解について)	報告のみ
◆条例		
議案第61号	富岡町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例について	全会一致 原案可決
議案第62号	富岡町課設置条例の一部を改正する条例について	全会一致 原案可決
議案第63号	富岡町なかよし広場設置条例の一部を改正する条例について	全会一致 原案可決
議案第64号	富岡町ひとり親家庭医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について	全会一致 原案可決
追加議案第72号	議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	全会一致 原案可決
追加議案第73号	町長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	全会一致 原案可決
追加議案第74号	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	全会一致 原案可決
追加議案第80号	富岡町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例について	全会一致 原案可決
◆その他		
議案第65号	訴えの提起について (補助金の返還等を求める訴えの提起)	全会一致 原案可決
◆補正予算		
議案第66号	令和7年度富岡町一般会計補正予算(第3号)	全会一致 原案可決
追加議案第75号	(第4号)	全会一致 原案可決
議案第67号	令和7年度富岡町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決
追加議案第76号	(第3号)	全会一致 原案可決
議案第68号	令和7年度富岡町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決
追加議案第77号	(第3号)	全会一致 原案可決
議案第69号	令和7年度富岡町農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決
議案第70号	令和7年度富岡町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決
追加議案第78号	(第3号)	全会一致 原案可決
議案第71号	令和7年度富岡町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決
追加議案第79号	令和7年度富岡町介護サービス事業特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決
◆議員発委		
発委第1号	議案第80号 富岡町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例に対する附帯決議について	全会一致 原案可決

※第5回定例会における「附帯決議について」「一般会計補正予算」は別頁に詳細を掲載しております。また、各議案については富岡町ホームページにおいても報告しておりますので、ご参照ください。

附帯決議

こんなことが決まりました



議案第80号に対する附帯決議

議案第80号 富岡町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例において町長・副町長・教育長の給料月額を減ずる条例が可決された背景にある町職員の非違行為について、再発防止に加え住民の信頼回復及び組織体制の正常化を図るため、附帯決議により町議会としての意見を明確にするための議員発委について、可決しました。

(12月定例会) 全会一致 原案可決

【町への要望(抜粋)】

- 懲戒処分の対象となる事案が発生した経緯及び背景についての徹底的な検証、管理監督責任の明確化、組織全体のコンプライアンス意識が適切に機能していたかの点検を実施すること。
- 公務員倫理やコンプライアンス、ハラスメントに対する研修の義務化。併せて、非違行為が発生しにくい風通しのよい職場環境の整備と内部統制機能の向上に努めること。
- 本決議を重く受け止め、綱紀粛正と組織文化改善に全力で取り組むこと。

議員が切り込む!! 質疑応答



【なかよし広場設置条例】

問 今回廃止される場所以外の広場の広場についての現状と、今後の計画は。(渡辺三男)

答 福祉課長
廃止される場所以外の5か所の広場について現在遊具等は設置されていません。帰還困難区域以外の広場については除草等の管理を町がしています。

問 今後、児童の居住状況や行政区との協議を行うなど、関係各課と町内居住の動向を見て検討していきます。

【訴えの提起(ウチノ)】

問 訴えは補助金返還の民事の案件だけか。刑事事件での訴訟を起す考えは。(安藤正純)

答 総務課長
議会の同意案件には該当しませんが、刑事事件としても訴訟を進める考えです。

問 補助金の申請時、実施中、実施後のチェック体制は。(渡辺正道)

答 住民課長
申請の手順として、提出された事業計画書に基づき内容の審査を実施します。審査については関係する5つの課の担当補佐や係長が行い、その上で問題がなければ採択となります。その後、交付金の概算払いを行い、年度末に事業決定の報告を受け内容の審査や現地の確認をして交付決定となります。

問 事業採択の際は信用調査も行う必要があるだろう。訴訟を起しても返還は難しいのでは。(渡辺三男)

答 住民課長
信用調査の実施については、今回の反省を踏まえて取り入れられるかどうかの検討をしたい考えです。

【宮川副町長】

答 宮川副町長
公金を扱う重要性を認識し、不正を発見した以上は返還が難しいとしても見過ごさない姿勢が必要であると思っております。

お詫びとご報告



令和7年10月22日発行の「とみおか議会だより224号」において左記についての掲載もれがありましたので、お詫びの上ご報告をいたします。

選管委員および同補充員を選出

選挙管理委員4名および同補充員4名を選出しました。任期は、令和7年10月1日から4年間で、(9月定例会 原案可決)

▲選挙管理委員▲

- 郡山 泰明さん
- 西山 栄子さん
- 平良 克人さん
- 佐藤 忠さん

▲補充員▲

- 猪狩 富行さん
- 梶原 修さん
- 林 芳典さん
- 吉田 恵子さん



スバロ!! 町政を問う



2 議員が質問 12月定例会の一般質問に2議員が登壇し、町の対応や考えなどを問いました。この紙面では、質問した順に質疑応答の要点をお知らせします。

1 安藤 正純 議員 6

- 大学設置発言の趣旨は
- 廃プラ発電事業への対応は



2 高野 匠美 議員 7

- 緊急医療提供体制の今後の見通しは
- 質の高い福祉等、サービス提供の連携は



山本 育男 町長

動画配信中!

富岡町議会公式チャンネル
YouTube 開設



※QRコードを読み取ると議会ライブ配信のアーカイブ動画が見られます。

一般会計

事業精査等による減額

《1,115万円を減額補正》

事業精査等による減額計上等により1,115万円の減額補正を行い、総額124億2,905万円となりました。補正のあった主な事業は下表のとおりです。

事業内容(費目名)	補正予算額
特別会計繰出金(4件)	390万円増
後期高齢者医療事業費(委託料 他)	691万円増
地域おこし協力隊事業費(委託料)	257万円減
営農再開支援水利施設等保全事業(工事費 他)	5,800万円減
ふくしま森林再生事業費(委託料)	1,000万円減
道路新設改良事業費(工事費 他)	2,900万円減
消防施設維持補修費(土地購入費 他)	1,390万円増
アーカイブミュージアム事業費(委託料 他)	3,042万円減
追加の補正予算	3,400万円増
その他	6,013万円増
補正予算額 合計	1,115万円減

問 アーカイブミュージアム事業費の減額の内容は。(佐藤啓憲)

答 生涯学習課長
遺跡のあるエリアにおいて蓄電設備の開発工事が計画されており、試掘調査を予定していたところですが、事業者から電力会社との調整で本年度の着工ができないとの申し出があったため減額するものです。

問 地域おこし協力隊事業及び営農再開支援水利施設等保全事業の減額の内容は。(安藤正純)



答 産業振興課長
地域おこし協力隊事業の減額は、当初想定していた人数より応募者が少なかったためです。営農再開支援水利施設等保全事業の減額は、滝川ダムのパイプライン通水試験が先送りとなったための減額と、各工事発注の請け差です。

議員が切り込む!! 質疑応答





高野 匠美 議員

問 緊急医療提供体制の今後の見通しは

答 中核的病院の開院まで現行を継続



ふたば医療センター附属病院

問 ふたば医療センター附属病院について、24時間365日体制の緊急医療提供体制は継続的に維持されるのか。運営に必要な財源確保の現状と将来的な計画について今後の見通しの把握と町の考えは。

答 町長 県の考え方について、町が把握している内容は「令和11年度以降大熊町に開設される中核的病院に合わせ、統合および廃止について検討を進め、開院まで現行の体制を継続する考えです。必要な財源確保は毎年国と協議し、運営に係る所要額を確保していきます。」というものです。

問 町民の皆さまが今後の富岡町の医療体制について安心できる明確な状態にするために、町民説明会を開催する等、一方的な説明にせず町民との質疑応答や意見交換に十分な時間を取ってもらいたい。小規模な地区懇談会を開催する等、きめ細やかな対話の機会を設けたり、アンケート調査などの情報発信の効果を検証・改善していく考えはあるか。

答 健康づくり課長 町民の皆さまから意見等をいただけるような機会を設けていきたいと思っています。



答 健康づくり課長 医療機関とふたば医療医師会等とも相談しながら近隣町村との協議の中で検討していきます。

問 高齢化が進み、医療提供者の確保が難しくなる中で、富岡町の医療を未来へつなぐためスマートフォンやインターネットを活用し、私たちの健康を身近にもっと賢く守るためのデジタルヘルスケアの導入は経済産業省も自治体とベンチャー企業との連携を推奨し、支援もしている。積極的に活用していくべきと思うが、町の考えは。

答 健康づくり課長 訪問看護事業者に対し主治医から指示書を発行することに連携が保たれ、在宅における医療的ケアや生活支援が適切に行われているとの報告があります。

問 町内の24時間365日の訪問看護事業所について、町内の利用者には現在一人の状況である。今後、町に医療機関が少なくなっていくのであれば、この事業所の役割はとらえるが町の考えは。

答 町長 あらゆる機会に、できるだけ各町村と連携を図りながらどういった方法がいいかなどを検討していきたいと考えています。

問 大熊町に開院予定の県立中核病院に行く際、高齢者等アクセスが難しい方もいる。今後、隣町等との連携を図り、町長がリーダーシップを発揮して具体的な成果に繋がるよう計画的に取組んでもらいたい。町の考えは。



答 福祉課長 今後支援もしていきたい、更にPRしていきたいと考えています。

問 質の高い福祉等、サービス提供の連携は

答 連携は保たれ適切に行われている

問 町では社会福祉協議会と民間事業所が訪問看護サービスを提供している。それぞれの事業所の利用状況とサービスの内容等による質の高いサービス提供のための連携はどのようになっているのか。

問 大学設置発言の趣旨は

答 若い世代の「学びや交流の場」



安藤 正純 議員

問 原発事故から14年が過ぎ、その間数多くの復興事業が行われてきたが、事業の目的や効果・費用などを精査する復興事業検証を行うべきと思うが町の考えは。

答 町長 復興・再生に関する各事業に対する透明性の確保や限られた財源の効果的な活用の観点において重要な指摘であると考えます。一方で本町の復興は未だ道半ばであり、現時点で復興事業全体を総括として評価できる段階に至っていないとは考えておらず、各種取組について評価と改善を重ね、国や県と連携しながら復興に邁進したいと考えています。

問 地元新聞に掲載された「富岡町、大学設置計画30年度実現目指す」に関する町長発言の趣旨とこれまでの経緯について伺いたい。

答 町長 町民有志の皆さまを中心として、県立富岡高等学校の校舎・敷地の今後の在り方や第二校風寮の有効活用などをテーマとして議論がなされてきました。町としても想いを同じくするものであった

問 富岡町にとって将来に大きな負担を残す可能性のある事業については、庁内にプロジェクトチームを編成し提言書を町長に提出する制度を作るべきと思うが町の考えは。

答 町長 町としましては、職員一人ひとりが主体的に俯瞰した視点を持って関連な議論がなされるよう促し、引き続き庁内の横断を刺す執行部における復興推進会議で慎重な協議・検討を踏まえまして、町民の皆さまへの説明責任や将来世代への責任を果たしていきたいです。

問 事業の主体は町立なのか、財源の裏付けはあるのか、学生及び教授の募集をするためのノウハウやマンパワーが町にはあるのか。

答 企画課長 町は大学にこだわってはいませんが、大学の設置となると町単独ではほぼ不可能だと考えています。設置よりは誘致の方が現実的だと思います。



ことから、町に事務局を移行し本年9月に検討準備会議を開始しました。大学設置は今後の検討で想定される多くの案のひとつに過ぎず、検討の前提になるものではなく、本町を若い世代の「学びや交流の場」としていきたいというのが、基本的な立ち位置です。

問 大学の設置問題について、町長は発言のとおりに5年後の開学を目指して計画をこのまま推し進めるのか、今後の方向性は。

答 町長 事業者は事業計画の提出に向け、町及び許可権者である県に対して事前相談をしており、町としては計画内容の確認を行っています。なお、事業許可までの時間として事業計画が正式に申請されてから審査が完了するまで、一年半から二年を要することです。その間、必要な対話を随時行い法令遵守はもちろん、公害発生の防止や地域住民の理解などを強く求めるとともに、県から

答 町長 来年から始まる復興創生の第三期があと5年なので、その間に何らかの結論をつけたいとの考えの下、町がどこまでできるか、もしくは途中でできなくなるのか、皆さまの意見を聞きながら慎重に進めます。

問 廃プラ発電事業への対応は

答 意見書に意思を反映させる

問 町内蛇谷須地区において、木質バイオマス発電事業と県内及び首都圏から収集した廃プラスチック・有機廃棄物を焼却する産業廃棄物の中間処理事業を計画している事業者への対応は。

答 町長 町に求められる「意見書」に意思をしっかりと反映できるように努めます。

問 事業者の説明資料によると、富岡町役場および大菅行政区のご指導をいただき、地元説明会の他、戸別訪問にて同意を得る努力をするところだが、高津戸行政区および大熊町への影響は考えられないか。

答 生活環境課長 特別な決まりはありませんが常識的な範囲で、300mから500mとの数値が出てくることです。大熊町はじめ高津戸行政区にも事業者からお話する予定はあるとのことですので、十分配慮いただけるものと考えています。

総務文教常任委員会

※常任委員会とは① 本会議前に議案などを事前に審査したり、各課の事務の執行状況などを調査する場です。

総務文教常任委員会が調査した
主な事業について
報告します。

- 総務課
- 企画課
- 税務課
- 出納室
- 住民課
- 教育総務課
- 生涯学習課
- 議会事務局



＜ 要望活動の内容について ＞

Q 町村会で行う国等への要望活動について、富岡町は小良ヶ浜・深谷地区の避難指示解除に向けて帰町を促すために放射線量の低減が不可欠であることなど、町独自の問題についても国に伝えるべきではないか。

A 町村会では、双葉郡内の幅広い内容での要望を行っており、帰還困難区域の早期避難指示解除など、小良ヶ浜・深谷地区の内容も含まれています。
町村会で行う要望活動とは別に、町独自の要望活動も行っており、個別具体的内容を生の声でしっかりと要望しています。
早期の避難指示解除につなげられるよう、実効性のある要望活動を継続していきます。



【総務課】

＜ 移住・定住施策について ＞

Q お試し住宅の利用件数について、令和3年度の開始当初はほとんど効果がなかったように感じていたが、令和6年度から利用者が増加している。何か対策を行ったのか。

A 避難指示などの対象となったふくしま12市町村へ福島県外から移住する方に向けた移住支援金による支援のほか、福島県が「ふくしまぐらし」と銘打って取り組む福島県への移住政策が功を奏し、全国的にも相談や支援制度が手厚い県という認識が浸透したことから、福島県全体への移住者は過去最高となり、相双地方は県中地方に次いで多くの移住者に選ばれています。当町においても先人が築いた住みやすさという長所と、移住専門員が誠実かつ丁寧に対応を続けてきたことにより、結果に結びついていると認識しています。



とみおかくらし情報館とお試し住宅

Q 行政視察において、佐野市の担当者から富岡町の麓山の火祭りの魅力についてお話があった。町民のみならず魅力のある行事であり、観光資源としても大きい。また、富岡町は海岸線が綺麗であり、サイクリングやジョギング等、人が集まるような企画をすることで交流・関係人口の拡大につながるのでは。

A 改めて富岡町の魅力が伝わっていると確認しました。
その上で、こういった形でさらに魅力を伝え、交流・関係人口の増加や移住につなげられるかを更に深掘りし、課題が出てそのつど解決していけるような取り組みにしたいと思います。

【企画課】

＜ 外国人居住者への対応は ＞

Q 町内の外国人居住者が増えているが、困りごとの相談や各種申請で窓口に来られた際の対応はどのようにしているのか。

A 申請の際は、外国語の翻訳システムを使用しています。
なお、現在のところ住民課へ困りごとの相談は寄せられていませんが、いつでも対応ができるよう準備をしています。



【住民課】

＜ 町内の施設等整備について ＞

Q グリーンフィールド富岡跡地の整備について、夜の森地区の整備と内容が重複しないような計画を。

A 町全体として人の流れを考えることが重要ですので、基本構想の策定を行い、夜の森地区整備との調整をしながら事業を進めます。

Q ふれあい農園の東側のエリアについて、水辺空間や散策路等が存在しているとあるが、現在整備されているのか。

A 除染後に遊歩道の整備を行っています。草刈りについては年に複数回実施しており、現在は散策できる状況になっています。
朝方に散歩やジョギングをされる方がスポーツセンター敷地内でも増えてきていますので、利用促進ができるよう継続していきます。



ふれあい農園東側の散策路

Q バーベキューハウスの整備は必要か。

A 現在、合宿で利用される方が増えており、その中でバーベキューがやりたいというご意見があります。もともとバーベキューハウスがあったエリアを先行して整備し、利用状況を鑑みながら周辺のエリアも広げていきたいと考えています。

【生涯学習課】

産業厚生常任委員会

※常任委員会とは② 全議員が必ずどちらかの常任委員会に所属します。行政視察や事業の現地視察も実施します。

産業厚生常任委員会が調査した
主な事業について
報告します。

- 【所管課】
- 産業振興課
 - 都市整備課
 - 農業委員会
 - 生活環境課
 - いわき支所
 - 郡山支所
 - 福祉課
 - 健康づくり課



＜交通支障となる不具合等の情報共有を＞

- Q** 路面の不具合や樹木の枝による交通への支障を見かけることがあるが、都市整備課によるパトロールにおいて、どのような対応をしているか。消防団のパトロールとの情報共有は。
- A** 町内パトロールや住民から連絡があった際、職員もしくは事業者委託により対応しています。また、消防団との情報共有も行っており、今後も生活環境課と協議しながら進めます。
- Q** 橋梁の定期点検において早期の対策が必要と判定された箇所の補修工事を行うとのことだが、緊急性や対策の必要性についての基準は定まっているか。
- A** 国の基準により4段階で判断しています。



橋梁の補修の様子



【都市整備課】

＜営農型太陽光発電設備への対応は＞

- Q** 他自治体においては営農型太陽光発電設備におけるトラブルについても聞か、当町の状況は。
- A** 現在までトラブルの発生はありませんが、圃場内の排水対策や雑草対策が不十分で適切な管理がなされていない箇所をパトロールにおいて確認していますので、栽培者に通知を出し、適切な管理を実施するよう指導しています。
- Q** 今後も、指導した箇所の確認を。
- A** 事業者から改善報告も提出されていますので、適宜確認を行うとともに、来年度以降も全体的なパトロールを実施します。

【農業委員会】

＜事業の周知について＞

- Q** 妊婦および18歳までの子どものいる世帯を対象としたオンライン医療相談事業はとて素晴らしい事業であると思う。登録者を増やすためのどのような周知方法をしているか。
- A** 福祉課とも連携して訪問や乳幼児健診時に周知・広報していましたが、登録者数があまり伸びないため、今後は定期的なSNS等での発信も考えていきます。 【健康づくり課】

＜使用料減免による利用促進について＞

- Q** 公設民営型複合商業施設運営事業において、さくらモールの交流広場(屋内・屋外)の使用料について。規程見直しにより1日1,000円となったが半日ずつにするなどの考えは。また、利用者の増加はあったか。
- A** 事業者によって利用の時間帯が異なるため、自由に使えるように半日では区切らずに1日としました。また、見直しをした令和7年11月には20件程度ご利用いただいています。それ以降は平日もほぼ予約が入っており、好調なスタートを切ったと担当としては認識しています。



キッチンカーの出店や屋内でのイベントなど

【産業振興課】

＜除染・解体後の放射線量測定は＞

- Q** 特定帰還居住区域の除染・解体が進んでいるが放射線量が高いという指摘がある。町では、特定帰還居住区域に関して除染・解体後の放射線量の測定は行っているか。
- A** 個人所有の敷地のため町が測定をするのは難しいということもあり、環境省が実施している除染結果報告書をもとに情報共有を図っています。除染後の宅地や山林について、数値が高い箇所があることを把握しているので、フォローアップ除染等で放射線量低減を図ってもらうよう要望をして調整しているところです。今後、町としても地権者の同意の上、放射線量の測定を実施します。

【生活環境課】

行政視察 先進地に学ぶ (総務文教・産業厚生 常任委員会)

令和7年11月5日から6日にかけて栃木県佐野市および宇都宮市の行政視察を行いました。

富岡町は令和5年4月に夜の森地区を中心とした特定復興再生拠点区域の避難指示が解除されました。現在、雇用の場を確保するための産業団地の整備や子育て環境の整備、移住・定住希望者に対する窓口やお試し住宅の設置など様々な施策を講じていますが、町内居住者の増加は思うように進んでいない状況です。町民の帰還を促す一方で、新たに人を呼び込むため移住・定住の促進や関係・交流人口の拡大に向けた施策も展開する必要があります。

そこで、移住・定住の促進およびその前段としての関係・交流人口の拡大に関する取り組み内容とその効果、自治体が置かれた状況の中で移住・定住希望者に選んでいただくための発想力と着眼点等について勉強してきました。



地域特性を生かした取り組みの実施

佐野市
人口 約112,000人
面積 356.04km²



佐野市は、東京圏からのアクセスの良さと豊かな自然環境を兼ね備えたまちです。

子育て世帯や若者、東京圏への通学・通勤者等を対象に、安心して新しい暮らしを始められるよう、佐野市おためし住宅をはじめとした移住定住支援制度を整えています。

「佐野らーめん予備校」では移住者への独立開業を支援しています。

また、全国最多である佐藤姓について、藤原秀郷公を祖とする説が有力であることから「佐藤さんゆかりの地聖地化プロジェクト」にて「佐藤の会」を発足するなど、様々な視点から関係・交流人口拡大のプロジェクトに取り組まれています。



パンフレットおよびホームページで紹介

宇都宮市
人口 約510,000人
面積 416.85km²



明確なターゲットによる戦略的な施策展開

宇都宮市は、「住めば愉快だ宇都宮」をブランドメッセージに掲げ、時代潮流や移住者ニーズなどを的確にとらえながら、子育て世代や女性・若者など宇都宮市の強みを生かすことのできるターゲット層に対して効果的な移住定住施策を推進されています。

定住まで①認知、②体験、③移住、④定住と4段階の施策体系として各種支援やイベントの開催などを行っています。

また、餃子やカクテル、ジャズ、プロスポーツ、自転車、農業、ものづくりなど、多様な魅力を発信しイベントを行うことで関係・交流人口の拡大に取り組まれています。



ホームページより支援制度は抜粋

意見交換



○安藤正純
おためし住宅で移住定住者の増加を見込むことは難しい印象を受けました。

佐野市
おためし住宅は、まずは佐野市の良いところを体験してもらおうことを目的としています。

○佐藤啓憲
「佐藤の会」を立ち上げた際のアイデアの原点は、また補助対象の資格試験はどのようなものがありますか。

佐野市
「佐藤」が秀郷公ゆかりの姓という話が市民から寄せられたことが始まりです。また資格試験補助の対象者は市に住民登録がある学生です。全ての国家試験、看護師の受験料や民間の日商簿記1、3級、TOEICには補助が出ます。今年度からは英検も対象となりました。

○高野匠美
佐藤姓に関するプロジェクトの財源と、住民参加の取り組み、また、他の地域

との連携や情報交換による更なるプロジェクト拡大の考えはありますか。

佐野市
ふるさと納税および、開始時は地方創生推進交付金も活用していました。活動は住民参加型で、イベント等への出展などでつながりや機運の醸成をしていきたい考えです。また、苗字をきっかけにした全国つながりが更に広がると良いと思っています。

○渡辺三男
お試し住宅の利用日数設定の基準は。また、空き家改修補助がありますが、新築した場合にも補助がありますか。

佐野市
衛生管理の関係もあるため、費用面でのバランスをとりながら設定しました。また、空き家改修と新築に対しては、部署が違います。それぞれ補助があります。

○辺見珠美
起業家への支援がありますが、移住者も該当となりますか。

佐野市
移住者についても市民と

同様です。

○堀本典明
遊び心のあるプロジェクトが多数ありますが、議会の反応についてお聞かせください。

佐野市
賛否両論ありますが、一生懸命やった方がいいという意見の議員が多く、好印象であると思います。

○安藤正純
お試し住宅の利用条件と費用対効果についてお聞かせください。

宇都宮市
利用者については移住相談が必要条件となっています。費用対効果につきましては、精査は必要ですが実際の移住に繋がっていると感じています。

○渡辺三男
移住者に限らず市内での転居者についても支援を行っていますか、どのような目的ですか。

宇都宮市
各種の都市機能を集結した「拠点化の促進」に取り組

んでおり、居住誘導区域等に新たに住宅を取得し居住することを促す目的です。

○佐藤啓憲
移住者からの声はどのようなものがありますか。また、富岡町では医療機関の充実が課題ですが、宇都宮市ではどうですか。

宇都宮市
多いのは子育てしやすいという声です。車がなくても生活ができる、子どもの遊び場や商業施設、医療機関の充実、東京圏へのアクセスの良さも挙げられます。また、人口に対して医師が多く、救急の設備も整っています。

○辺見珠美
婚活イベントの開催年数と結果について、また、奨学金返還補助金に一般的な奨学金も含まれているかお聞かせください。

宇都宮市
令和5年度から年2回開催しており、昨年度1組がご結婚されました。また、奨学金は全て含まれます。

○堀本典明
新たな路面電車であるライトラインの構想と運営形

態について、また、プロモーション検証のアンケート回答率向上の手法、居住誘導区域の設定方法をお聞かせください。

宇都宮市
構想は市発信で運営は第三セクターであり、黒字化しています。アンケートはネット上でクーポンを付与しました。区域については市ではまちなかを都市拠点として、郊外の拠点とつなげるまちづくりを設定し、居住の支援も行っています。

○高野匠美
情報発信が素晴らしいと感じました。子育て支援と高齢者支援で力を入れていくことと、移住支援金の加算に関する条件をお聞かせください。

宇都宮市
子育て支援では、まず遊び場の創出に力を入れています。高齢者支援ではライトラインを通すことや市内巡回バスの取り組みにより動きやすいまちを目指しています。移住支援金の加算は東京圏からの移住者が対象で、国事業の要件に加えて、市独自に自治会に入っています。

当特別委員会では、震災前より原子力発電所からの通報連絡についての報告や、原子力発電所に関する安全対策等についての説明を受け、質疑応答を行っています。

原子力等 特別委員会

【計画の内容と作業員の体調・安全管理について】

原子炉建屋内のドローン調査の際、1号機には水素滞留のリスクがあるため水素パーズの検討を行うとあるが、水素パーズとはどのようなものか。また、現在も何か反応を起こして水素が発生しているのか。



辺見珠美議員

水素パーズとは、配管等の機器内部に濃度の高い水素ガスが溜まっている場所があり、引火による爆発リスクを低減するため、不活性ガスで薄めてから排気するものです。また、水素は継続的に発生しているのではなく、震災に伴う事故時に発生したものです。

作業員の体調管理や安全管理の観点から、スマートウォッチなどで管理をしてはどうか。

当社から貸与もしていますが、利用状況は企業や作業内容によって違います。体調管理については、医務室の利用促進を呼びかける等により今年の夏は熱中症の重症者が昨年度より減っています。安全管理については、専用スマートフォンの所持により緊急時の連絡手段を確保しています。



東京電力HD(株)

【トラブルの原因は】

原子炉建屋内のドローン調査を行う際、2号機から5号機は同タイプの原子炉であり貫通部等も同様であると思うが、今回3号機で内部へ進めないトラブルがあったのはなぜか。



東京電力HD(株)

貫通部の径や場所等は基本的には同じですが、原子炉の内側から燃料デブリが溶け落ちた状況によって配管等の状況に違いが出ている可能性がありますので、現在確認を行っているところです。



渡辺正道議員

【富岡町の均衡ある発展のために】

富岡地区と夜の森地区の均衡ある発展に寄与することを目的に、東京電力が検討に入っている廃炉作業を担う人材育成の施設整備について、夜の森地区も候補としてもらいたいと考える。



安藤正純議員

正式に何か決まったわけではないので断定的なお答えはできませんが、設置場所等については引き続き検討を重ねてまいります。



東京電力HD(株)

現地視察レポート ～福島第二原子力発電所～



令和7年10月10日に原子力発電所等に関する特別委員会において東京電力福島第二原子力発電所の現地視察を実施しました。

【視察場所】

・福島第二原子力発電所 構内

4号機原子炉建屋、乾式貯蔵施設およびキャスク工場の建設予定地等について説明を受けながら視察しました。



視察等の様子(写真提供：東京電力ホールディングス(株))

議員が切り込む!! 質疑応答

問 使用済み燃料プール内に貯蔵されている新燃料については未使用の燃料であると思われるが、このまま廃棄となるのか。もしくは他の原子力発電所等に搬送するのか。(辺見珠美)

答 東京電力 新燃料は、加工業者に譲り渡す、あるいは廃棄物として処分する等、今後の検討課題であり、現在のところは未定です。

問 固体廃棄物をドラム缶に入れ固体廃棄物貯蔵庫で保管をしているが、使用するドラム缶の耐用年数は。(安藤正純)

答 東京電力 耐用年数に特に決まりはありませんが、固体廃棄物貯蔵庫で保管するドラム缶は、週1回の頻度で保管状態の外観目視点検を実施し、漏洩等の異常がないことを確認しています。

問 原子炉建屋内にある低レベル放射性廃棄物の内、放射能レベルが比較的高いものをL1、比較的低いものをL2、極めて低いものをL3とされている。人体への影響や最終的な処分方法など分かりやすく説明してもらいたい。(安藤正純)

答 東京電力 L1は制御棒、炉内構造物等プラントの運転中に炉内で放射化されたもので、人が容易に近づけないような放射線量が高いものです。L2は配管やフィルターなど固体状の廃棄物で放射能レベルの比較的低いもの、L3はコンクリートや金属など、化学的、物理的に安定な性質の廃棄物の内、放射能レベルのきわめて低いものが該当します。また、これらの廃棄物は放射能レベルに応じて、深さや放射性物質の漏出を抑制するためのバリアの違いにより埋設処分をし、年間0.01、0.3ミリシーベルトを超えないよう設計されています。

問 2025年のノーベル化学賞を受賞された金属有機構造体の開発では、物質の分離等への応用も期待されている。そのような結果も踏まえて、放射性物質の分離技術を磨いていってほしい。(安藤正純)

答 東京電力 廃炉を進めていく上で非常に重要であり必要な技術であるため、引き続き検討、技術開発を進めていきます。

問 L1については固体廃棄物貯蔵庫のような簡易的な場所での保管を考へはないか。(渡辺三男)

答 東京電力 基本的にL1のような放射線量の高くは固体廃棄物貯蔵庫にドラム缶で保管できるものではなく、保管できる容量で保管することになります。保管場所や扱いについては今後しっかりと丁寧に検討していきます。

町の重点事業について徹底議論!!

全員協議会では、議案の審査や議会の運営等に関して協議・調整を行っています。

◆夜の森地区中核拠点施設の整備について

(産業振興課)

問 駐車場の大型車と一般車両とを分けて出入口や駐車スペースを設ける計画であるが、桜の季節時の混雑を考慮した大型車の転回スペースが必要ではないか。
(宇佐神幸二)

答 産業振興課
大型車両の取り回しができる広さは確保されていると認識していますが、いただいた意見を踏まえて、今後の基本設計の中で精査しながら検討していきます。

問 フリースペース等の利用に関するオペレーションは現在未定です。なお、フリースペースの占有は、個人あるいは団体の利用料の取扱い等が異なるものと考えますので、今後、検討します。

答 産業振興課
一階にフリースペース、二階に有料のコワーキングスペースが計画されているが、フリースペースを占有した作業等を実施することは可能か。
(辺見珠美)

問 ランニングコストの提案が10年間の計画で出ているが、期間の根拠は。(佐藤啓憲)

答 産業振興課
今後、運営維持管理を行う事業者と可能かどうかを含めて検討します。

問 物販施設について、重点を置いているのは富岡町民の買い物環境の改善か、他町からの集客か。富岡町の独自性についても、現段階でどのように考えているのか。
(渡辺正道)

答 産業振興課
客層については平常時とイベント開催時でそれぞれ異なりますが、平常時は地域の方々にご利用いただきたいと考えています。独自性については、地場産品売り場での商品構成で町の良いところを示していきたいと考えています。

問 国補助金の採択に向けては、町長を筆頭に取組んでいます。不採択となることも想定し、既存廃炉交付金を積み立て、整備に充てる準備を整えています。

答 産業振興課
温浴施設の整備に国補助金を充てこむ考えのようだが、補助不採択時における施設整備費の確保は。(平山勉)

問 フリースペースや地域物産エリアが少々手狭に思える。広さなど充実させる考えは。(渡辺三男)

答 産業振興課
一般的に事業者がテナントとして入る期間は15年でありますが、公共施設運営にあたり15年は長いとの考えのもと、可能な範囲として10年で決めました。

問 ランニングコストに対する補助金はあるのか。
(安藤止純)

答 産業振興課
ランニングコストに対しては、5年間に限りの補助制度があります。それが降における補助はありません。補助金に頼らない事業運営ができるよう努めます。

問 県のサイクル事業や町のフラワーパーク事業などの構想があり、ソフト事業により人が集まることで温浴施設も必要となる流れが重要であると考えるが。(堀本典明)

答 産業振興課
イベント等を繰り返しながら地域に親しまれることにより交流が深まり、買い物から温泉という形にもつながると考えます。その地区の連携という形でしっかりと詰めていきたいと思えます。

◆除染・解体工事及び仮置き場の状況、中間貯蔵施設への輸送状況並びに特定廃棄物埋立処分事業の状況等について

(環境省)

問 屋敷林(いぐね)の除染の実証試験について、表土をはぎ取った後に覆土を行い、次のステップでその覆土を撤去となっているのはなぜか。
(辺見珠美)

答 環境省
宅地自体の放射線量がすでに十分低減しているも、例えば隣接する道路等からの影響によって放射線量が高くなる場合があります。その際は宅地自体の低減は難しいですが、周辺の除染をしていくことで低減を確認するなどのフォローをしつつかりとしていくよう想定しています。

問 中間貯蔵施設への輸送ルートについて、浜街道から小良ヶ浜に抜ける道路は狭く起伏が激しい大型のダンプとすれ違う際に危険を感じるものがあるため、運転手の方に對して改めて安全の周知を行ってほしい。
(佐藤啓憲)

答 環境省
屋敷林の実証試験では、堆積物除去、表土削り取り、覆土、伐採など各工程の効果を個別に確認できるようにします。伐採の効果は正しく評価するためには覆土の影響を排除する必要があります。シート上に覆土した後で全て撤去できる方法を用います。

問 環境省の輸送事業者については、改めて安全運転による輸送を徹底することを指導していきます。

答 環境省
環境省の輸送事業者については、改めて安全運転による輸送を徹底することを指導していきます。

問 組織改編の際は、職員の仕事量のばらつき等に留意してもらいたい。
(佐藤啓憲)

答 総務課
来庁した際の用件で何課に行けばいいのか等の情報を提供できるようにすることや、窓口での申請のワンストップ化を図りたい考えです。

◆庁内組織体制の見直しについて

(総務課)

問 安全対策課の放射線対策係の概要は。
(渡辺三男)

答 総務課
業務量の均一化を図るため、各課のヒヤリングを実施して事務分掌に反映してはいますが、実施後も見直しする考えを持ちながら進めます。

問 災害時の避難誘導を行うのは、どの部署になるか。
(安藤止純)

答 総務課
安全対策課の消防交通係が主となります。



令和7年度活動状況報告

議員の派遣や委員会、定例会等の活動状況を報告いたします。
(広域圏・水道企業団等の議会や学校行事等を除く)

令和7年10月16日～令和8年1月20日(議会広報特別委員会最終日)

年月日	会議名称	出席	安藤正純	辺見珠美	平山勉	佐藤啓憲	渡辺正道	高野匠美	宇佐神幸一	渡辺三男	堀本典明
R 7.10.20	福島県町村議会議員研修会	7	○	○	○	○	欠	○	○	欠	○
R 7.10.24	全員協議会	8	○	○	○	○	欠	○	○	○	○
R 7.11.5 ～11.6	総務文教常任委員会 (栃木県佐野市、宇都宮市 行政視察)	3	○		欠			○	欠	○	
	産業厚生常任委員会 (栃木県佐野市、宇都宮市 行政視察)	3		○		○	欠				○
R 7.12.3	総務文教常任委員会	6	○		○			○	○	○	◎
R 7.12.4	産業厚生常任委員会	4		○		○	○				○
R 7.12.10	原子力発電所等に関する特別委員会	9	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
R 7.12.12	議会運営委員会	6	○			○	○	○			◎
R 7.12.12	議会広報特別委員会(第225号第1回目)	5		○	○	○		○			◎
R 7.12.12	全員協議会	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R 7.12.17	令和7年第5回定例会(第1日目)	8	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
R 7.12.17	議会運営委員会	6	○			○	○	○			◎
R 7.12.18	令和7年第5回定例会(第2日目)	8	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
R 7.12.24	議会広報特別委員会(第225号第2回目)	4		○	○	○		○			
R 8.1.13	全員協議会	7	○	○	○	○	欠	○	欠	○	○
R 8.1.13	議会広報特別委員会(第225号第3回目)	4		○	○	○		○			
R 8.1.20	議会広報特別委員会(第225号第4回目)	4		○	○	○		○			◎

○：出席 □：委員会に所属しない議員 ◎：職務のための出席 ☒：公務による欠席 欠：欠席

定例会・臨時会のライブ配信 およびアーカイブに関するお知らせ

避難生活が続く中で、議会の傍聴を希望する町民や富岡町に興味のある方が来庁しなくても傍聴できるようライブ配信およびアーカイブを開始しました。
富岡町議会 公式YouTubeチャンネルから閲覧することが可能です。

QRコードの読み取りによるアクセス

今号の5ページ下段に記載のQRコードと同様です。



富岡町ホームページのバナーからアクセス



ライブ配信も同様に富岡町議会 公式YouTubeチャンネルにおいて配信します。



ちひとと

みなさまの声

Q. 20歳を迎えた感想は？

A. 20歳を迎え、身の引き締まる思いです。今日まで導いてくださった皆様、これまで自分を支えていただいたすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは大人としての自覚を持ち、恩返しができるよう一歩ずつ歩んでいきたいと思えます。今後とも温かく見守っていただければ幸いです。

Q. 20歳を迎え、まずやってみたいことは？

A. 20歳を迎え、仕事面ではさらなる成長を目指したいと考えています。現在、私は福祉の職に就いているので、自分自身のスキルアップのためにも積極的に資格取得などをしていきたいです。

日々の業務を大切にしながら知識を深め、より多くの方の力になれるよう努力を重ねていくことが今の目標です。

Q. ふるさと富岡町での思い出で、心に残っていることは？

A. 故郷での一番の思い出は、小さいころに家族で行った桜まつりです。富岡町の綺麗な桜をみながらおいしいものを食べた思い出が、一番心に残っています。

満開の桜並木の下で過ごした温かな時間は、今でも大切な宝物です。そのような美しい風景や活気ある町の姿を、これからも守り、未来へ繋いでいきたいと強く感じております。

Q. 富岡町の復興のために、何が重要だと思いますか？

A. 富岡町の復興には、町で暮らす方々や町を思う方々の「心のつながり」が何より大切だと感じています。

私自身、スポーツ等を通じて町に携わる中で、皆様の笑顔が大きな力になると実感しています。一人ひとりが寄り添い、共に歩む温かい交流が続くことで、一歩ずつ確かな復興へとつながっていくのではないかと考えております。

Q. 将来の夢は何ですか？

A. 将来の夢は、スポーツを通じて故郷に貢献することです。私は今、富岡町の野球、ソフトボール、駅伝に出場させていただいているので、富岡町の皆さんに明るいニュースや元気、勇気を届けられるような存在になりたいです。一つひとつの競技に全力で打ち込み、結果や姿勢を通して、お世話になっている町の方々へ恩返しをしていけるよう頑張ります。



二十歳を祝う会
実行委員長

佐藤一之成(さとういちのじょう)さん

【経歴】

- 福島県立ふたば未来学園高等学校 卒業
- 社会福祉法人富岡町社会福祉協議会 入職

議会を傍聴しませんか？

- 3月定例会は、11日(水)～17日(火)の会期で開催する予定です。
- 所定の用紙に、住所(市町村名まで)・氏名・性別・年齢を記入いただくだけで、どなたでも傍聴することができます。
- 定例会・臨時会のライブ配信およびアーカイブを議会公式YouTubeにて行っています。
- 審議日程など、詳細については議会事務局までお問い合わせください。

議会事務局 ☎0240-22-2111(代表)



発行責任者
議長 堀本典明

議会広報特別委員会
委員長 佐藤啓憲
副委員長 辺見珠美
委員 平山 勉
委員 高野匠美

新年あけましておめでとうございます。表紙は二十歳を祝う会でのお花を掲載しました。今年には震災から15年目を迎えますが、二十歳になられた皆さんは、震災当時はまだ幼く、何も分らないまま友達と離れ離れになったことだと思えますが、ご家族のたくさん愛情を受けてこれまで立派に成長されました。町としても今後への大きな希望となりますので、二十歳を祝う会に参加された皆さんにお礼を申し上げます。

さて、今号で議会だよりも225号となりますが、議会広報特別委員会のメンバーも研修に参加して、分かりやすい議会だよりの編集に努めて参りますので、お気づきの点がございましたらご連絡いただきますようどうぞよろしく願います。

(佐藤 啓憲)

編集後記

FSC®の基準に従って認証され、適切に管理された森からの木材を含んだ用紙を使用して印刷しています。

